

ふりがな 氏 名	やまだ かつひろ 山田 勝洋	職 名	助教
取 得 学 位	修士(芸術)	学会での受賞歴	
主な担当科目	美と芸術、ユニバーサルデザイン、ビジュアルデザイン、総合表現演習		
所 属 学 会	日本美術教育学会、美術科教育学会、大学美術教育学会、日本保育学会		

◆ 教育業績

事 項	実 施 年月(日)	概 要
教育方法の実践例 形成的評価を目的としたルーブリックの活用	平成 29 年 4 月～	学習課題の評価にルーブリックを活用している。担当科目のすべてに導入しており、レポート(中間・期末)やグループワークに対する学習者間の相互評価、作品制作などの学習課題で活用している。学習者に対しては、学習課題の提示時にルーブリックを示すとともに、課題採点後は評価のコメントを記入してフィードバックしている。学びを促すための評価を意図しており、学習者との評価観点の共有などに繋がっている。
LMS の活用	平成 29 年 4 月～	学習支援の一環として、学内の LMS を使用した学習記録の管理を行っている。LMS では、シラバスの内容や各授業回の概要、使用したスライド教材のデータを閲覧できるようにしている。また、学習課題の提出管理にも活用しており、課題・評価・フィードバックを記録している。
パワーポイント教材の作成と LMS での公開	平成 29 年 4 月～	多様な学生への対応や理解促進を目的に、講義および演習科目において、パワーポイント教材を作成し、活用している。教材作成においては、見やすさや分かりやすさなどについて学生から感想や意見をもらい、随時改善を行っている。また、学習者が授業外学習で活用できるよう、LMS 上に教材データを公開している。
作品ポートフォリオの活用	平成 29 年 9 月～	「コンポジション」において、作品ポートフォリオを導入した。ポートフォリオには、造形理論に関する講義記録、理論にもとづいて制作した作品、学生のコメントなどを中心に記録する。理論と実践の接続や、自己省察の習慣化の支援を主な目的として導入している。「基礎コンピュータ・グラフィックス演習」「実践コンピュータ・グラフィックス演習」においても同様のねらいから、LMS のポートフォリオ機能を活用し、作品データ及び制作に対する振り返りのコメントを記録している。
グラフィック・シラバスの活用	平成 30 年 4 月～ 令和 2 年 3 月	「美と芸術」「デザイン理論」において、学習意欲の喚起や概念の理解促進、記憶の定着などを目的に、グラフィック・シラバスを活用した。グラフィック・シラバスは、初回授業で配布するとともに、毎回の授業においても提示し、授業全体の構造を把握できるように配慮した。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
ジグソー法を用いたグループワークの実践	平成30年 5月～ 平成31年 3月	「建学のこころ」において、ジグソー法によるグループワークを実践した。本科目は、初年次教育の一環として、創立者への理解を深めることなどを目的としている。学習課題では、創立者の伝記である書籍の内容を、ジグソー法を用いて分担してまとめ、その内容を共有した。学習課題については、創立者の理解、学生間のコミュニケーション、学習態度の形成などを考慮し、効果的な学習方法としてジグソー法を選択して設計した。
その他 名古屋女子大学中学校高等学校 平成29年度 土曜講座「絵画を見るコツ」	平成30年 1月27日	名古屋女子大学中学校高等学校の3・4年生を対象に、絵画鑑賞を例に、イメージと意味、知識や経験の関係について講演を行った。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	大学における効果的な授業法の研究 7—学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発—	共	令和元年 5月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第13号	市村由貴、佐々木基裕、渋谷寿、白井靖敏、杉原央樹、竹内正裕、遠山佳治(代表)、豊永洵子、羽澄直子、服部幹雄、原田妙子、野内友規、 <u>山田勝洋</u> 、三宅元子、吉川直志 p.1-47 全47頁中、第4章第3節「短期大学部生活学科の事例」(p.44-46)を担当
	幼稚園児・小学校児童を対象とした玩具づくりワークショップ実践研究—「造形表現」と「理科の見方・考え方」の教育方法論の検討3—	共	令和2年 3月	名古屋女子大学 紀要 家政・自然編 人文・社会編 第67号	渋谷寿、吉川直志、 <u>山田勝洋</u> p.71-84
学会発表	絵画鑑賞における知識と作品理解の関係についての一考察(口頭発表)	共	平成29年 10月	第66回日本美術教育学会学術研究大会大阪大会(大阪教育大学)	日本美術教育学会誌『美術教育』第302号 p.148-149
	アクティブラーニングを取り入れた絵画鑑賞の授業設計と実践(口頭発表)	単	平成30年 8月	第67回日本美術教育学会学術研究大会三重大会(三重県総合文化センター)	日本美術教育学会誌『美術教育』第303号 p.148-149
展 覧 会	ちりめんじゃこのストラップ	単	令和2年 10月	「「絵の回路」—設楽研究室の修了生、在学生による展示—」[企画展](愛知芸術文化センター アートスペースX、名古屋) 主催:愛知県立芸術大学大学院 設楽知昭研究室	インク、布

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
その他 (報告等)	(報告書) 大学における効果的な授業法の研究 7—学生が主体的に学修する力を身につけるための教育方法の開発—(機関研究中間報告)	共	平成30年 5月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第12号	市村由貴、佐々木基裕、渋谷寿、白井靖敏、杉原央樹、竹内正裕、遠山佳治(代表)、豊永洵子、羽澄直子、服部幹雄、原田妙子、三宅元子、野内友規、 <u>山田勝洋</u> 、吉川直志 p.39
	「材料・行為」から始まる造形表現のための授業設計に関する研究	単	平成31年 1月	アジア文化造形学会 中部支部 研究報告 Vol.6	p.25-26
	大学における効果的な授業法の研究 8—本学における効果的なアクティブラーニングの開発—(機関研究中間報告)	共	令和元年 5月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第13号	市村由貴、河合玲子、佐々木基裕、渋谷寿、白井靖敏、杉原央樹、竹内正裕、遠山佳治、羽澄直子、服部幹雄、野内友規、 <u>山田勝洋</u> 、三宅元子(代表)、吉川直志 p.91
	大学における効果的な授業法の研究 8—本学における効果的なアクティブラーニングの開発—(機関研究中間報告)	共	令和2年 5月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第14号	三宅元子(代表)、市村由貴、河合玲子、佐々木基裕、渋谷寿、白井靖敏、杉原央樹、竹内正裕、遠山佳治、羽澄直子、服部幹雄、野内友規、 <u>山田勝洋</u> 、吉川直志 p.137
	大学における効果的な授業法の研究 8—本学における効果的なアクティブラーニングの開発—(機関研究中間報告)	共	令和3年 5月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第15号	三宅元子(代表)、市村由貴、河合玲子、佐々木基裕、渋谷寿、杉原央樹、竹内正裕、遠山佳治、羽澄直子、服部幹雄、野内友規、 <u>山田勝洋</u> 、吉川直志 p.45
	幼児教育で育みたい資質・能力に関する研究—教育課程・ドキュメンテーション・表現・環境に関する研究—	共	令和3年 5月	名古屋女子大学総合科学研究所『総合科学研究』第15号	壁谷紫織、白木律子、関戸紀久子、竹内敦子、藤森紀美代、平岩保子、光崎亜紀美・皆川奈津美、森岡とき子、渡邊和代、荒川志津代、河合玲子、柴田悦子、渋谷寿、坪井眞里子、豊永洵子、 <u>山田勝洋</u> 、山本麻美、吉川直志、吉村智恵子 p.49-58 全10頁中、第3章第2節「ドキュメンテーション」、第1項「ドキュメンテーションと教育的ドキュメンテーション」・第2項「日本における保育記録」(p.51-52)を担当